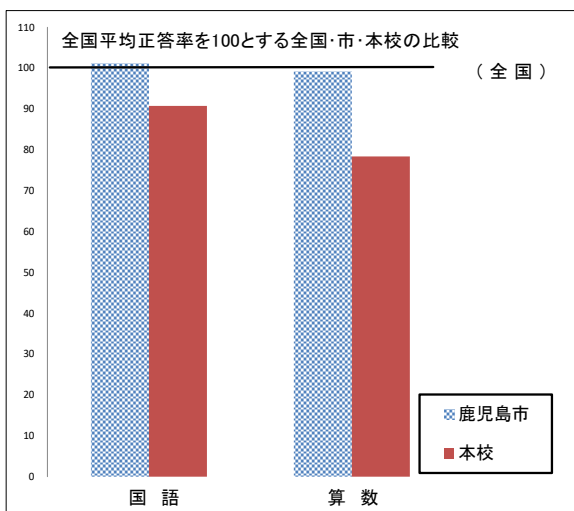


R5年度 全国学力学習状況調査結果について

【実施日】R5.4.18 【実施学年】6年



〈国語〉

全体の正答率は全国平均に届きませんでした。漢字など、基礎的な内容にも課題が見られましたが、条件に合わせて自分の考えを書く「条件作文」に対しては、本校の多くの児童が苦手意識をもっているようです。領域別に見ても、「話す・聞く」「読む」においては、全国・県・市との大きな差は見られないものの、「書く」に関しては、大きな課題が見られました。

〈算数〉

全体の正答率は全国平均に届かない結果でした。特に全国平均正答率の半分にも満たなかった「割合が30%になるものを選択する問題」や、「三角形の面積について分かることを答える問題」など、課題として挙げられる設問の多くが、複雑な問題ではなく基礎的な問題でした。観点別に見ても、基礎・基本である「知識・技能」に課題が見られる結果でした。

〈全体傾向と今後の対策〉

児童質問紙の結果からは、おおよそ落ち着いた生活をしていることが分かりましたが、「自己有用感」の値が全国に比べ低く、自分を肯定的に捉えきれていない傾向が見られました。

本校では現在、「非認知能力」の研究を進めています。協調性や実行力、自己有用感などの「非認知能力」の高まりが、「夢の実現」やテストなどで計ることのできる「認知能力」に良い影響を与えることが分かってきました。中でも“人から認められた”という「自己有用感」は、子供の自信が持続しやすく、更に他の非認知能力への波及効果もあるとされています。ただし、「非認知能力」を高める努力だけでは良いということではなく、計算力や読解力、作文力などの「認知能力」の育成と同時に高めていくことで、より効果が上がるということもありません。

そこで、今、本校が自己有用感や自尊感情を高めるために取り組んでいるのは、「ほめ言葉シャワー」と「授業と連動した家庭学習」です。「ほめ言葉シャワー」とは、お互いのよいところを帰りの会などで発表し、互いのよさを認め合う学級風土や子供一人一人の居場所づくりをねらいとしたものです。また、「授業と連動した家庭学習」は、その日の授業で学習したことを家庭学習課題として出すことにより、家庭でも「できた」「わかった」を更に実感し、学びの定着を図っていくものです。

このような取組から、これからも、子供たちのよさを伸ばし、えがお満開の武岡台の子供を育成できるよう、私共も学び続ける教師集団として精進してまいります。

祝「いじめ防止啓発強調月間作品コンクール」入賞!



《ポスターの部》
5年 山本 莉子さん

《標語の部》
2年 梅下 晃瑠さん

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日
		週休日	週休日			B 檜 委員会ロング⑥		振替休日	秋季大運動会(午前開催)	週休日			B 檜 運動会全体練習① 運動会準備(五・六年)⑥			週休日	土曜授業日 運動会全体練習①②(予行)			B 檜 運動会係打合せ会⑥		スポーツの日	週休日	週休日		B 檜 クラブ⑥	運動会全体練習①		週休日	
																	十月の主な行事													

◆行事は変更になる場合があります。